和歌山県における空き家の増加の要因

～人口流動と地理的特性による分析～

原　匡彦
景観生態学研究室　60206326

1. 研究背景

和歌山県の地理特性と人口

- 面積の8割以上が山地を占め、平野が少ない
- 2017年和歌山県人口は944,320人で約4割が和歌山市に居住
- 沿岸地域では61地域が南海トラフ巨大地震の津波困難地域に指定

人口移動が発生

⇒安全で住みやすい居住地域の需要が高まる

wakayama univ.

1. 研究背景

空き家の増加(土地・統計調査(国土交通省)より)

平成25年日本の空き家数は820万戸、前年から63万戸増加
平成25年度和歌山県の空き家率は、16.5%(全国第7位)

空き家の先行研究として

空き家の利活用に向けた研究は増加
一方で、
空き家の増加の要因となる人口移動、地理的分析
による実状の把握の研究は少ない

wakayama univ.

2. 研究目的

和歌山県における人口移動の現状と今後の傾向を把握し、空き家増加の要因となる地理的傾向を明らかにする

wakayama univ.

3. 研究方法

1. 2017年和歌山県 市町村ごとの人口移動を把握・分析

（e-Stat 住民基本台帳人口移動報告より）

2017年和歌山県市町村ごとの人口移動(総数の上位10地域)

		市町村ごとの移動前の居住地										
		移動後の総数	和歌山市	岩出市	田辺市	紀ノ川市	海南市	上富田町	御坊市	新宮市	橋本市	有田川町
市町村ごとの移動後の現住地	和歌山市	2843	0	481	273	402	529	31	81	121	122	140
	岩出市	1034	530	0	38	299	56	0	10	14	44	0
	田辺市	881	199	20	0	13	0	173	19	32	12	10
	紀の川市	744	311	239	22	0	54	0	0	0	41	11
	海南市	583	354	29	16	39	0	0	12	0	10	29
	上富田町	439	28	0	319	0	0	0	0	11	0	0
	御坊市	333	71	0	24	0	0	0	0	0	0	11
	新宮市	329	87	13	46	10	0	0	0	0	0	0
	橋本市	296	83	37	13	50	0	0	0	0	0	0
	有田川町	279	94	0	19	0	32	0	59	0	0	0

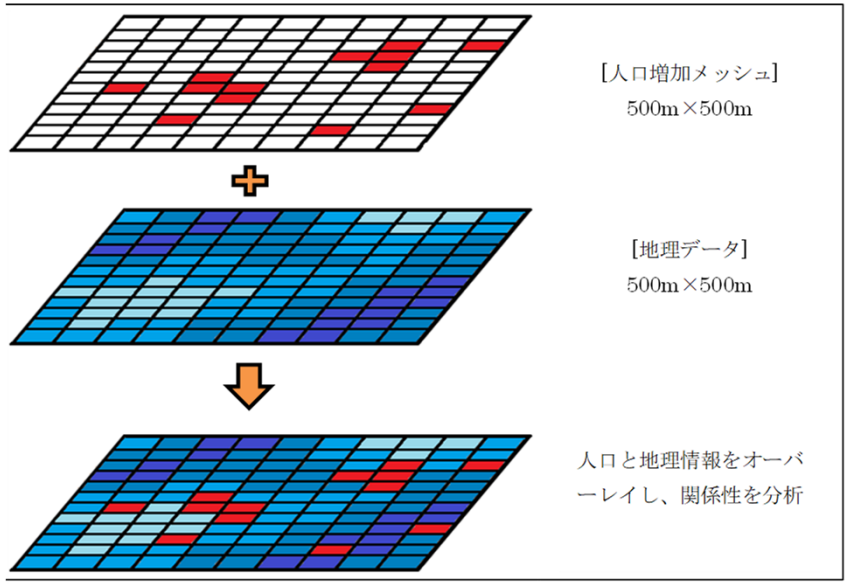
市町村ごとの人口移動を分析することで、人口の増加傾向にある地域を明らかにする。

wakayama univ.

3. 研究方法

2. 2030年将来推計人口をもとに、地理的分析

（国土交通省　国土数値情報より）



① 2030年将来推計人口をもとに人口増加メッシュの抽出(図1)
② 地理データ(標高・傾斜)と重ねることでデータの作成(図2,3)
③ 以上の結果をもとに分析

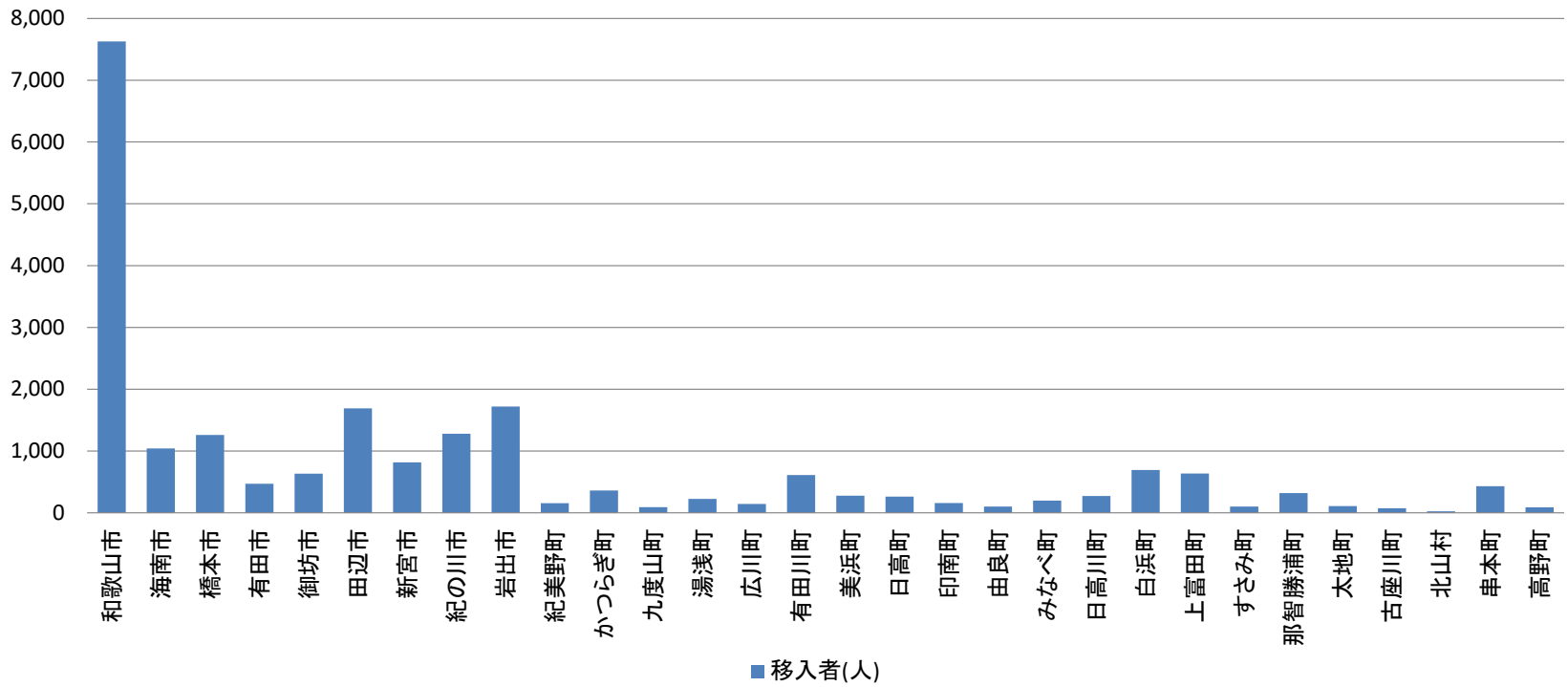
wakayama univ.

4. 研究結果

I. 2017年人口移動の分析
II. 将来人口増加メッシュの分析と地理情報(標高と傾斜)との比較

4. 研究結果

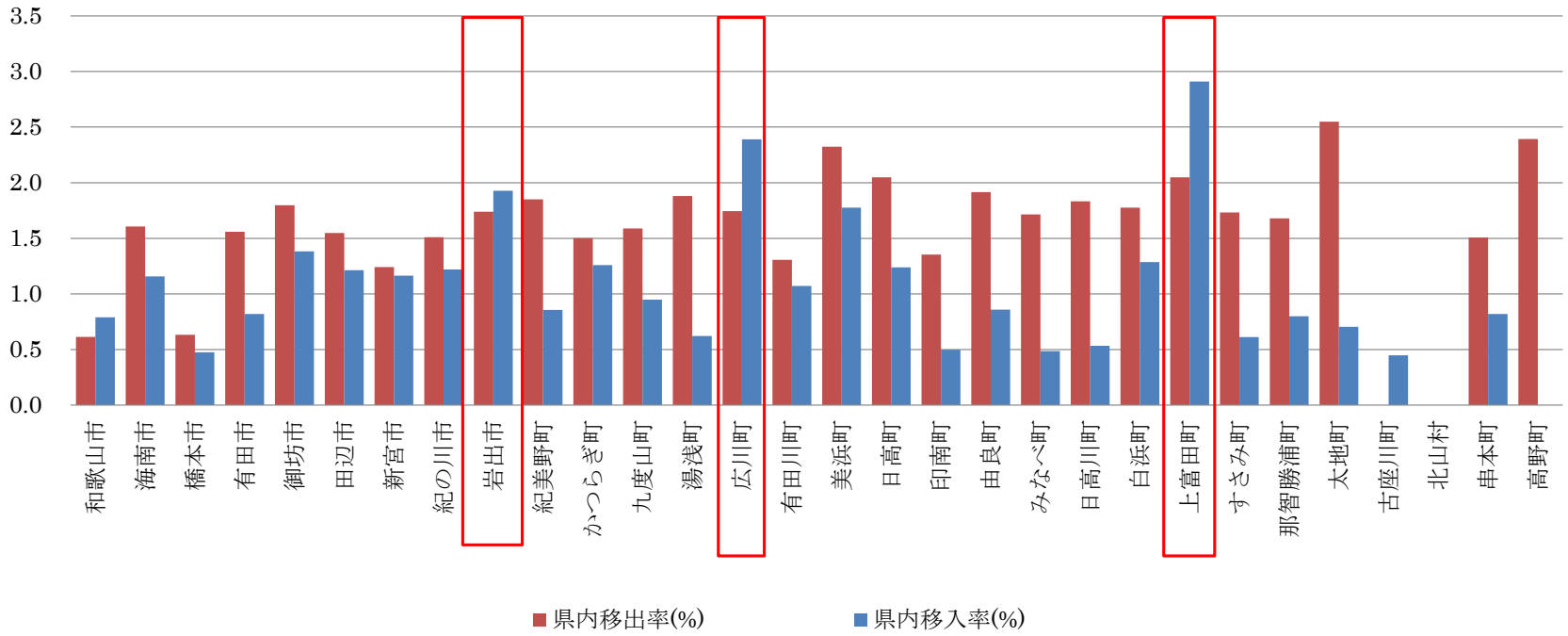
和歌山県の市町村ごとの移入者数



- 人口移動数は和歌山市や主要な市町村に集中している

4. 研究結果

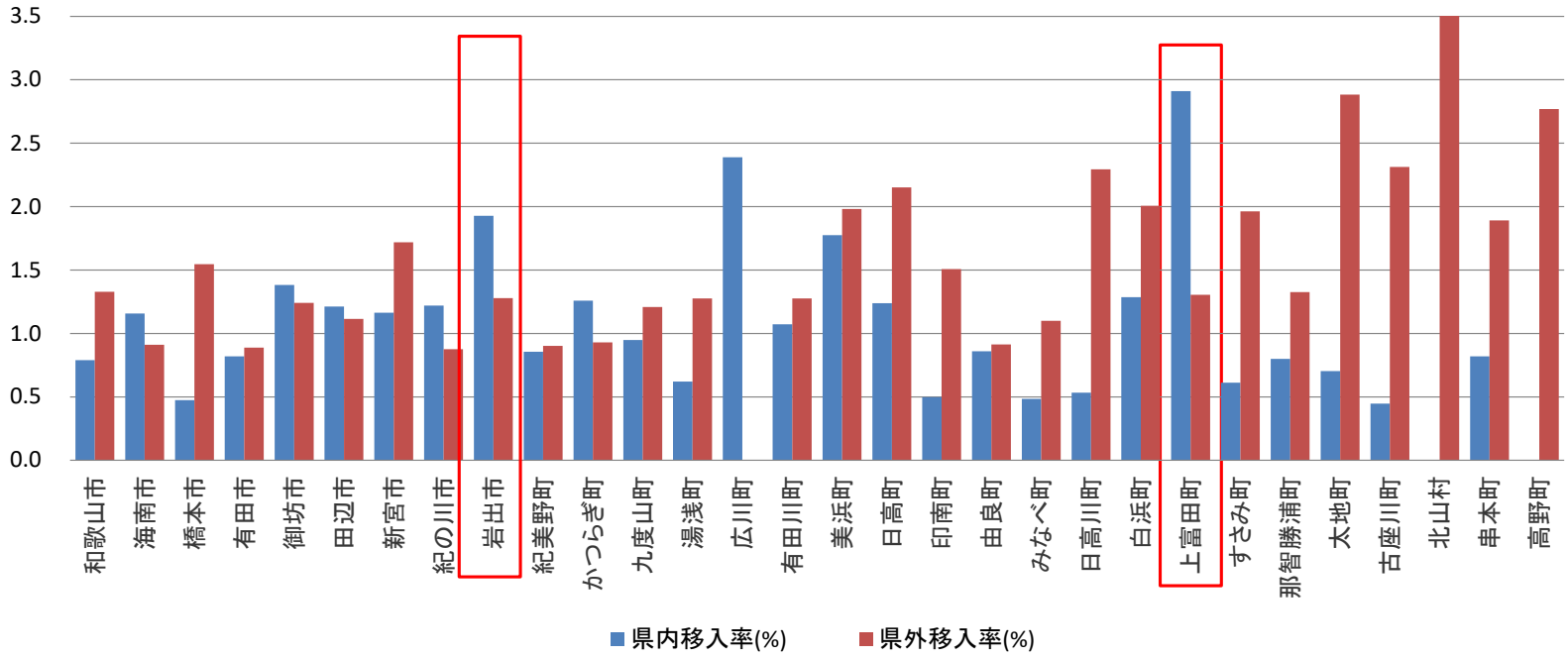
県内移入率と県内移出率の比較



全体的に移出率が高い中で、移入率が高い市町村を得た。
（岩出市、広川町、上富田町）

4. 研究結果

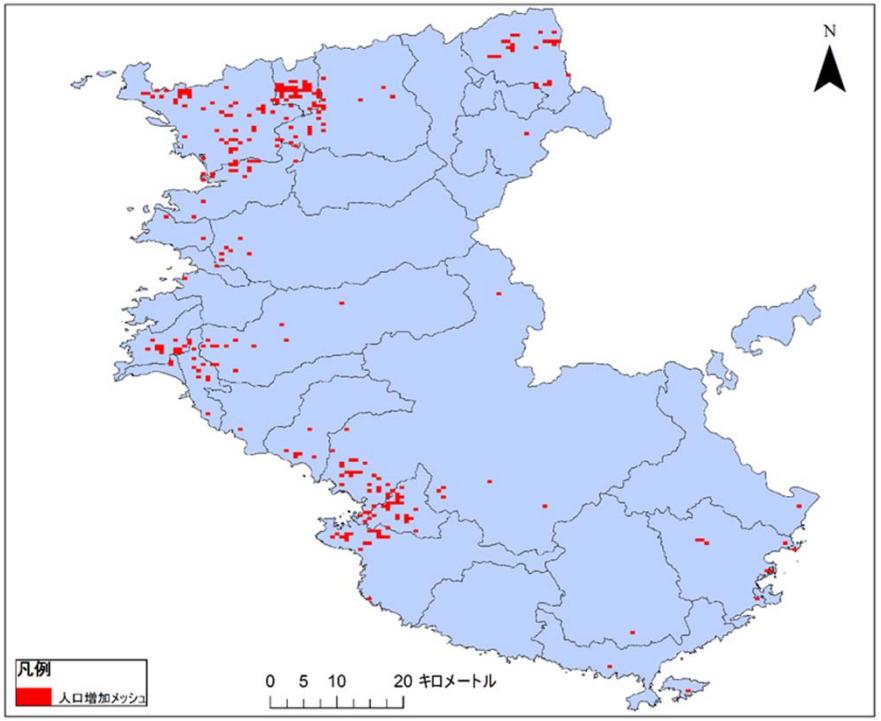
県内移入率と県外移入率の比較



全体的に県外移入率が高い中で、県内移入率が高い市町村を得た。
（海南市、御坊市、田辺市、紀ノ川市、岩出市、かつらぎ町、上富田町）

4. 研究結果　II.　将来人口増加メッシュの分析と地理情報(標高と傾斜)との比較

2030年将来人口増加メッシュの抽出(平成29年国政局推計より)



人口増加メッシュは各地域に集中して点在

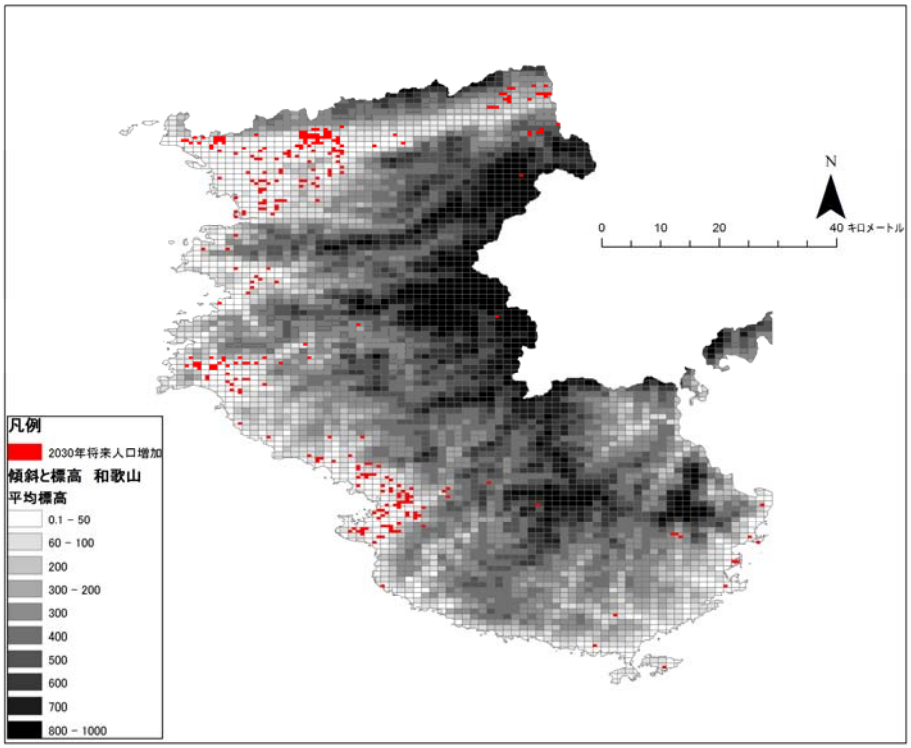
将来人口増加メッシュが多い市町村

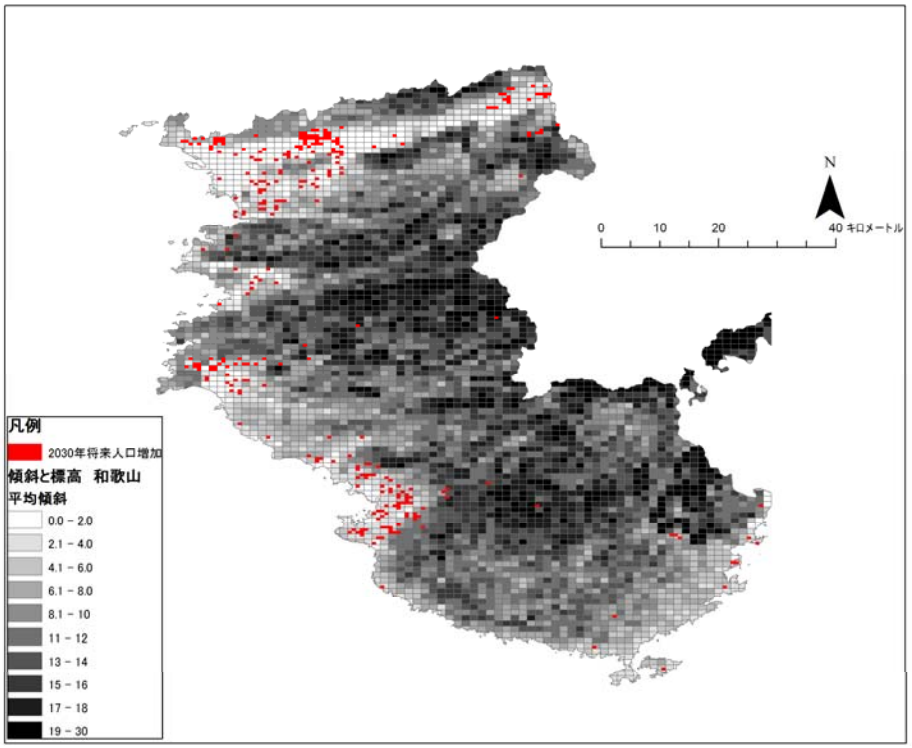
- 和歌山市
- 橋本市
- 岩出市
- 海南市
- 御坊市と周辺
- 上富田町と周辺

wakayama univ.

4. 結果と考察 II. 将来人口増加メッシュの分析と地理情報(標高と傾斜)との比較

将来人口増加メッシュと標高・傾斜の比較



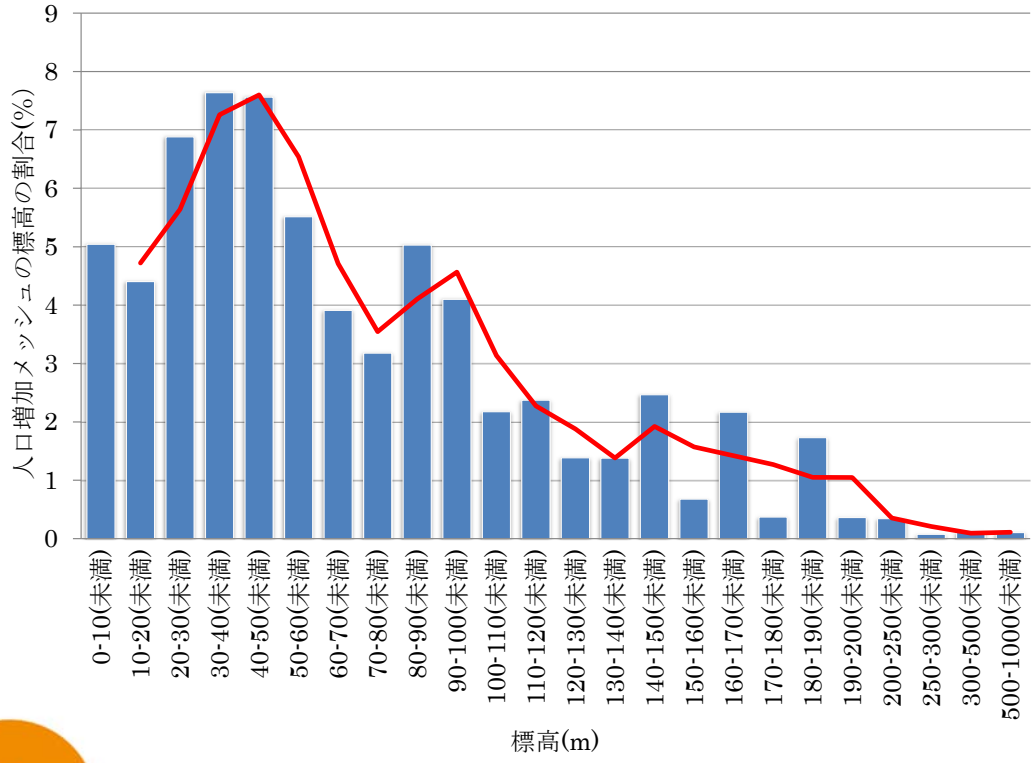


人口増加メッシュが多い箇所は**標高が低く、傾斜が緩やかな**場所に集中している

wakayama univ.

4. 研究結果　II.　将来人口増加メッシュの分析と地理情報(標高と傾斜)との比較

将来人口増加メッシュと標高の分布の分析

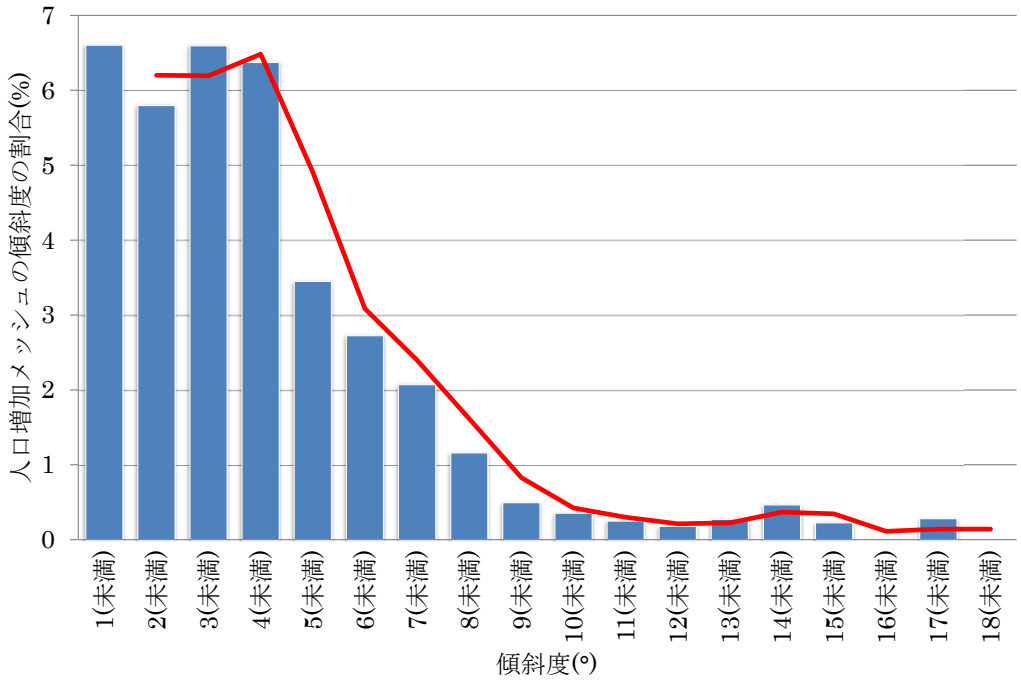


- 標高 0～20m未満は人口増加メッシュが少ない
- 標高20～50m未満が人口増加メッシュが多い
- 標高50m以上から人口増加メッシュが減少する傾向

wakayama univ.

4. 研究結果　II.　将来人口増加メッシュの分析と地理情報(標高と傾斜)との比較

将来人口増加メッシュと傾斜の分布の分析

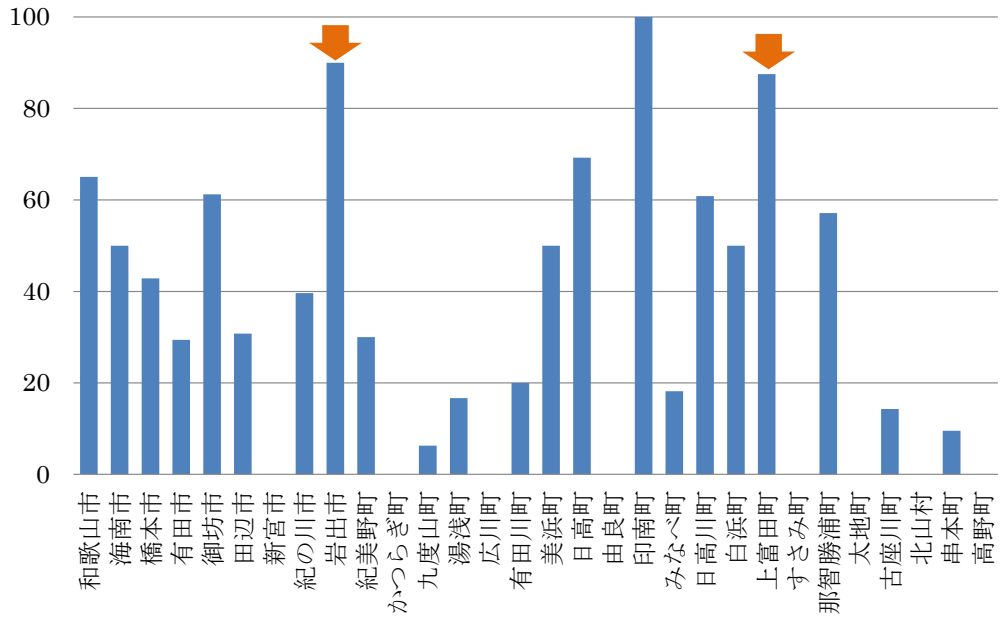


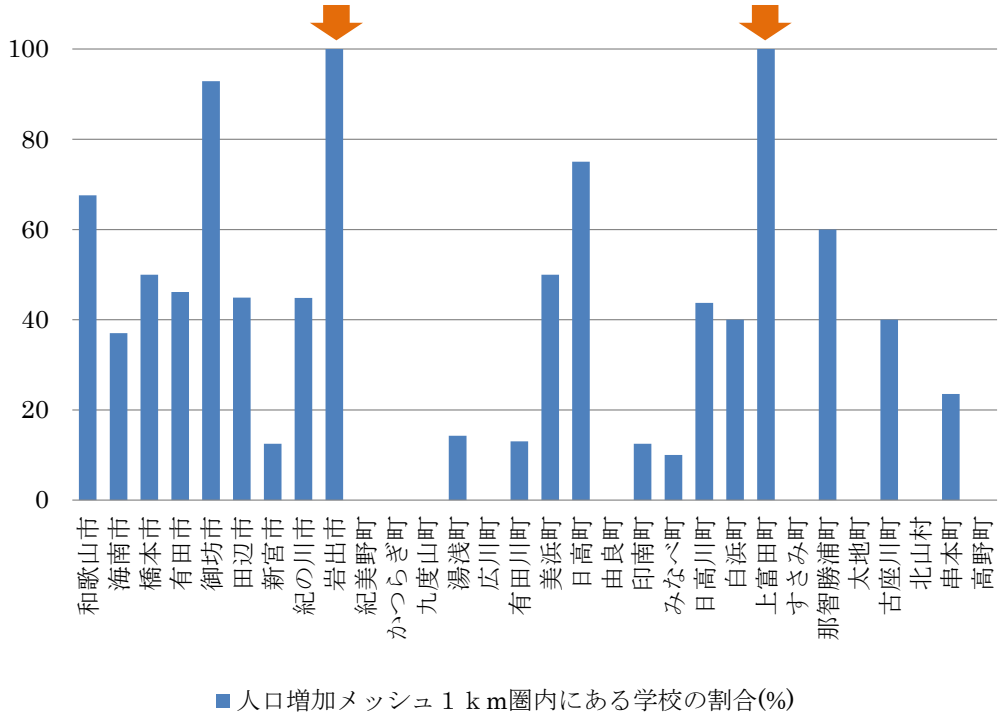
- 傾斜 0～4°　未満は人口増加メッシュが多い
- 傾斜4°　以上は人口増加メッシュが減少する傾向

wakayama univ.

4. 研究結果　II.　将来人口増加メッシュの分析と地理情報(生活拠点施設)との比較

将来人口増加メッシュと1km圏内にある生活拠点施設の関係性の分析





以上の図の割合が高い市町村

➡住宅から生活拠点施設に近い、利便性の高い土地が多い

wakayama univ.

5. まとめ

- 和歌山県人口移動分析(2017年)

・移動人口は、周辺の主要市町村に人口が移動する傾向にあった。
・全体的に県内移出率と県外移入率は、県内移入率より高い傾向にあった。
その中でも、県内移入率の割合が高い市町村は特に岩出市、上富田町であった。
その他(海南市、御坊市、田辺市、紀ノ川市、かつらぎ町、広川町)

- 人口増加メッシュと地理的情報の関係性の分析(2030年推計)

・人口増加メッシュは各地域に集中して点在していた。
・標高0～20m未満は人口増加メッシュが少なく、標高20～50m未満が人口増加メッシュが多かった。
・傾斜0～ 4° 未満は人口増加メッシュが多かった。
・人口増加メッシュ付近に生活拠点施設が多くあった市町村は特に岩出市、上富田町であった。
その他(和歌山市、御坊市、日高町)

wakayama univ.

6. 結論

1. 県内での市町村間の人口移動は、

旧住所近くの主要市町村に集中する傾向にある

2. その中でも、どこに移動？

市街地近郊高台（標高20～50m, 平均傾斜0～4°）

南海トラフ地震、暮らしやすさを求めて

3. 今後、空き家が発生する地域は？

沿岸部(標高0m～10m未満)、平均傾斜5°以上の地域、生活利便性の悪い地域

4. 今後の課題は？

特徴的だった岩出市と上富田町の人口増加要因を詳しく分析する

wakayama univ.